

春日神社



社報 春日神社

第二十一号

発行日 平成26年6月20日

発行者 〒870-0031

大分市勢家町4-6-87

春日神社 宮司 宮本隆之

TEL 097-532-5638

題字 東郷平八郎

もくじ

宮司挨拶

祭典ごよみ

夏祭りが間近に迫りました

右のわ神事

春日敬神婦人会 日帰り旅行

特別寄稿 参議院議員 山谷えり子

Fリーグ パサジィ大分祈願祭

御神木の養生

雅楽教室

中学生職場体験学習

蓬莱雅楽会の活動について

人事

婚礼典

御挨拶

宮司 宮本 隆之

春日の杜の木々が一ヶ月前は若々しく新緑に輝いていましたが、今は毎日に色濃く移り変わり、厳しい夏を迎える逞しさを身につけて来ているように感じられる頃となりました。

さて、オリンピックに並ぶ世界最大のスポーツの祭典であるサッカーワールドカップが、サッカー王国と呼ばれているブラジルにて開幕致しました。母国の地位と名誉をかけ、各地域の厳しい予選を勝ち抜いた我が国日本を始め、全三十二か国の選手達が熱戦を繰り広げます。日本代表の活躍を大いに期待するものであります。

このスポーツ大会の素晴らしさは、世界トップレベルの技術・戦術そして勝負への執着心・歓喜は申すまでもなく、選手はユニホームに国旗を掲げ国歌を斉唱し、観衆も選手同様に国旗国歌による応援を行うことで会場全体が一体となり、自然のうちに母国への愛国心が感じられるところだと思えます。

昭和三十九年の東京オリンピック開催の頃は、祝祭日には各戸の軒先また会社の社頭でほとんど国旗が掲げられていました。しかし近年では、本来の祝日施行の意味よりも休む人の便宜が優先され、いわゆる「ハッピーマンデー」と呼ばれるたんなる「休日」へと意識は移されてしまっています。

それが要因とは一概に言い切れませんが、国旗を掲げる家が減少しているのも事実です。東京オリンピックの開会日を記念して十月十日を「体育の日」の祝日に制定したように、それぞれには施行の意味があるわけです。些細なことかもしれませんが、こうしたことを学校で教えない以上、家庭で親から子そして孫へと教えていくことがまさしく家庭教育であり、伝統文化を伝承していくことにつながるものと考えます。

「日の丸」は他に同形のものが無くとてもシンプルで、万国旗が掲げられる中でも非常に目立ちすぐに識別できます。ワールドカップをよい機会として国旗・国歌を見直し、先人が嘗々と築き上げてきた、私たち日本の素晴らしさを見つめなおしては如何でしょうか。そして来る平成三十二年（二〇二〇）、二度目の東京オリンピックには、国中に日の丸の国旗が並ぶ中、世界各国からの人々を迎えたいものです。地球温暖化の影響か、猛暑や冷夏に加えて災害に至る思いがけない局地的なゲリラ豪雨や大型台風などの天候不順が国内外で心配されています。そのような中にも、当社では水無月の大祓や夏越大祭などの恒例行事を行うべく、例年通りに準備を執り進めております。

氏子崇敬者皆様には今後とも変わらぬご崇敬とお力添えを切にお願い申し上げますとともに、向暑の折どうかご自愛専一にてお過ごし下さいますようお願い申し上げます。

祭典ごよみ

六月 三十日 水無月大祓式

七月 十八日 夏季大祭 宵祭

子ども神輿巡行

十九日 夏季大祭 夏越大祭

大神輿巡行

九月二十五日 撰社天満社祭

十月 十八日 秋季大祭 宵祭

十九日 秋季大祭 神幸祭

潮搔き神事

十一月十五日 七五三祭

※当日に限らず、毎日祈願祭を奉仕しています

十一月二十三日 新嘗祭

十二月二十三日 天長祭

十二月三十一日 師走大祓式・除夜祭

●毎月一日・十五日は月次祭

夏季大祭が間近に迫りました

当社祭典の中で一番規模の大きい行事である夏季大祭まであとわずかとなりました。この行事に向けて、当社氏青会長木村成淑氏また本年度総先導を務める芦原研二氏を中心に五月から準備会議を開始、そしていよいよ巡行路が決定しました。神輿の担ぎ手は例年約六百名となっており、今年も氏子町内また一部企業からの参加を取りまとめています。参加希望のお問い合わせは社務所までご一報下さい。また、各企業のご協力により境内や参道には「奉燈」が灯されますので、こちらもご覧頂きたくどうぞご参拝をお待ちしております。

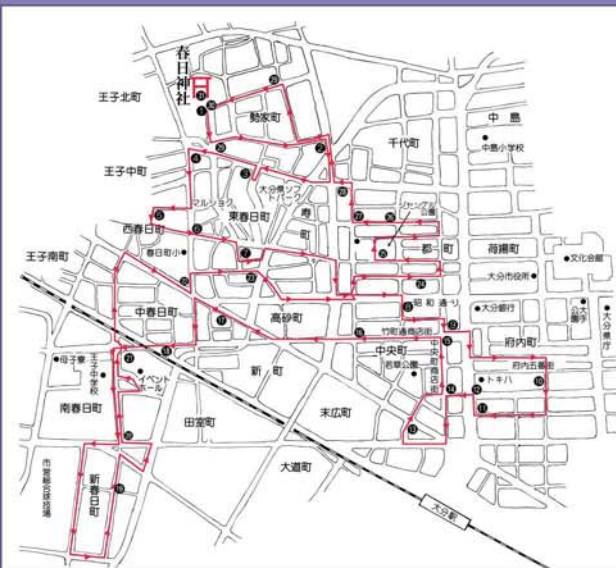
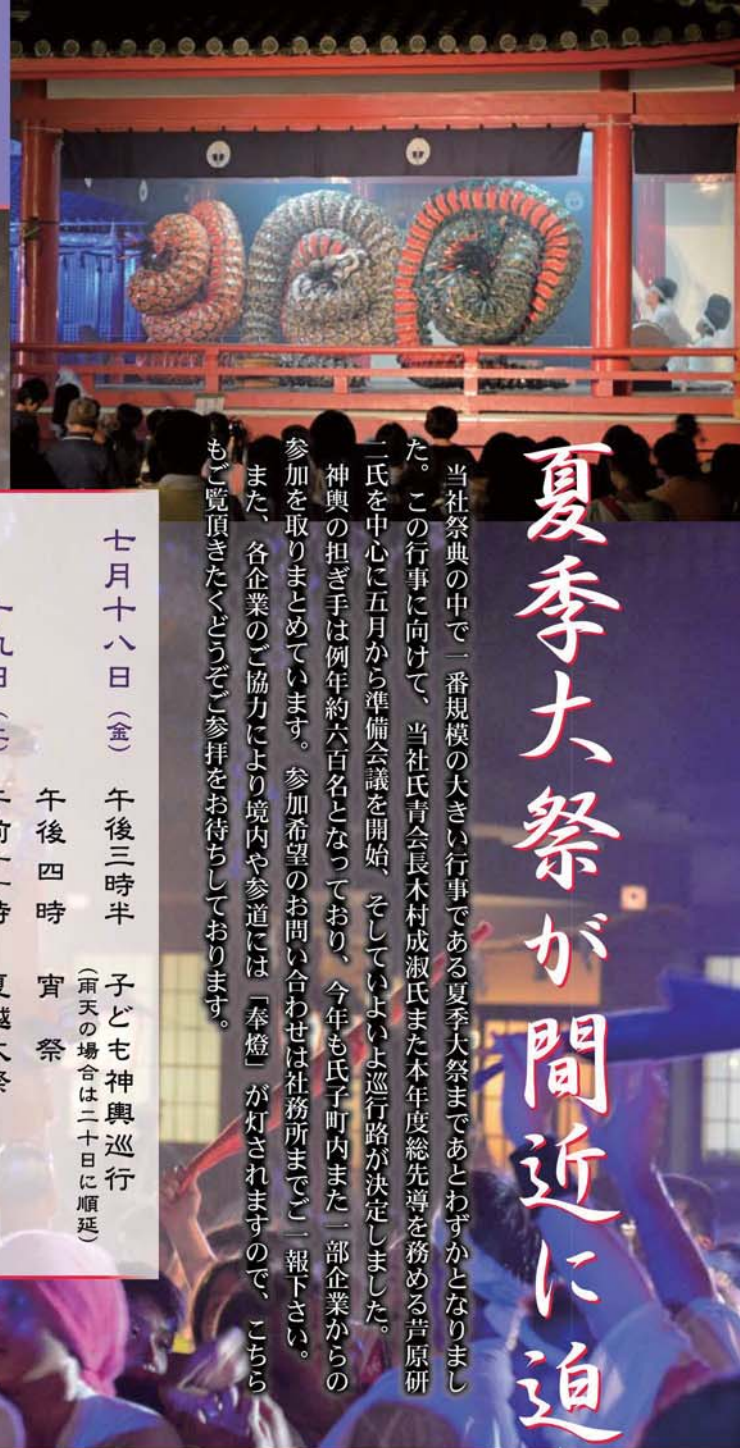
七月十八日(金) 午後三時半 子ども神輿巡行
(雨天の場合は二十日に順延)

午後四時 宵 祭

十九日(土) 午前十一時 夏越大祭

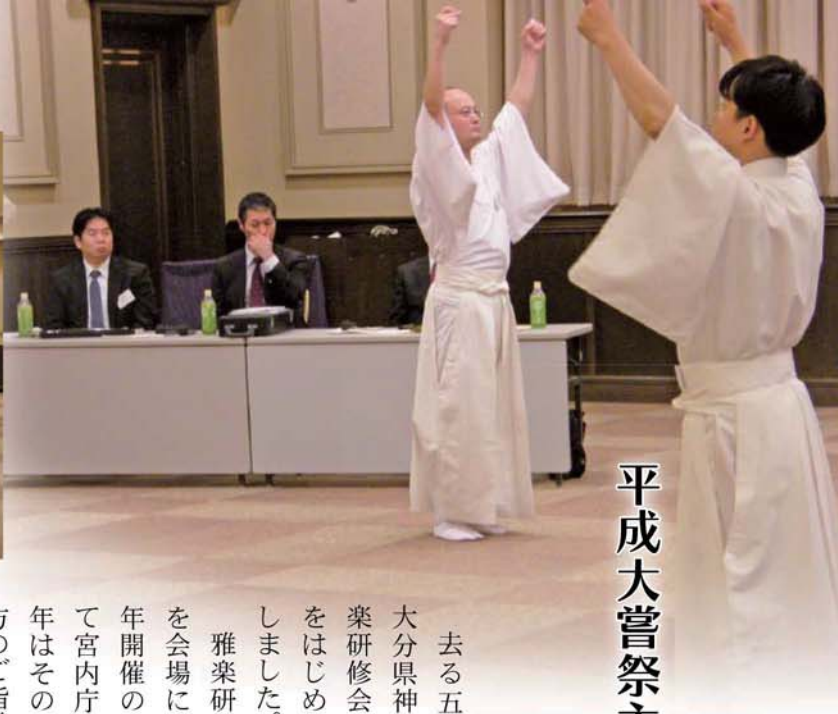
午後二時 大神輿巡行

※両日とも庄内神楽の奉納があります



《御神輿巡行路》

- 出発式 13:40
- ①春日神社出御 14:00
 - ②勢家町・西應寺 14:15
 - ③ソフトパーク・OEC 14:25
 - ④東春日・肉の木村屋 14:35
 - ⑤西春日・大野屋ビル 14:45
 - ⑥東春日・伊藤田クリニック 14:55
 - ⑦東春日・塚川病院 15:05
 - ⑧木村写真本館 15:25
 - ⑨ガレリア竹町ドーム 15:40
 - ⑩府内アクアパーク 15:55
 - ⑪府内町・太田旗店 16:10
 - ⑫トキハ 16:15
 - ⑬末広町・小幡歯科 16:40
 - ⑭ヤノメガネ中央店 16:50
 - ⑮ヤノメガネ竹町本店 17:05
 - ⑯ガレリア竹町西口 17:25
 - ⑰寿司めいじん春日店 17:35
 - ⑱中春日・鳥羽文具店 17:45
 - ⑲新春日町公民館 18:15
 - ⑳南春日・荒金酒店 18:35
 - ㉑大分イベントホール着 18:45
(夕食休憩) 19:25
大分イベントホール発
 - ㉒西春日・第一電話 19:45
 - ㉓東春日・木村医院 20:05
 - ㉔アリストンホテル 20:20
 - ㉕ジャングル公園着 20:40
ジャングル公園発 20:45
 - ㉖第一ビル 21:00
 - ㉗時計台ビル 21:10
 - ㉘都町・モコ美容室 21:15
 - ㉙勢家町・松岡商事 21:30
 - ㉚春日神社神門前 22:10
 - ㉛春日神社還御 22:30



平成大嘗祭主基地方風俗舞

及び雅楽研修会

去る五月十日・十一日の二日間にわたり、大分県神社庁主催の主基地方風俗舞(※)・雅楽研修会が当社を会場に開催され、当社職員をはじめ県内の若手を中心とした神職が受講しました。

雅楽研修会は、毎年この時期に県内各神社を会場に持ち回りで実施するのに対して、隔年開催の風俗舞研修会に関しては、講師として宮内庁楽部の先生方をお迎えしており、本年はその年に当ることから、風俗舞と雅楽両方のご指導を頂きました。

初日に主基地方風俗舞の研修、そして二日目に雅楽の研修がおこなわれ、期間中は舞や歌を始め、鳳笙・箏・龍笛の楽器ごとに一つ一つ丁寧なご指導がありました。

この、風俗舞に関しては去る六月十四日、玖珠で行われた豊稔祈願祭で奉納を行ない、その成果が遺憾なく発揮されました。

※平成二年、今上陛下が御即位に際して行なわれた大嘗祭において、大分県が神事で使われるお米をお供えする主基国に選ばれたことにより、歌人香川進氏が県内の地名を詠み込んだ和歌四首に宮内庁楽部が作曲、振り付けをしたものです。

夏越の大祓式 茅の輪神事のご案内

一年のちようど半分にあたる六月三十日には全国の神社で大祓式が行われます。この日、境内に茅(かや)で作られた輪が立てられ、「茅の輪(ちのわ)神事」と呼ばれる行事が執り行われます。この神事は半年の間に知らず知らずして身についた罪穢れを祓い除いて、無病息災・厄難消除を祈る神事です。特に水無月の大祓は、「夏越の大祓」とも呼ばれ、元気に暑い夏を乗り切るとともに、新たに迎える半年をさわやかにまた清らかに過ごしていくこうとする、私たちの祖先の生活の知恵とも言おうべきものです。

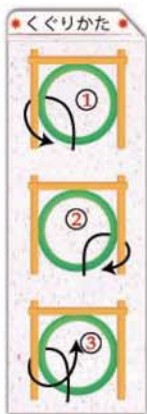
当社では三十日当日の朝から、神職の手により一本一本選り分けられたみずみずしい茅と青竹で作られた「茅の輪」が拝殿前に設けられ、午後四時から神職総代による祭典が行われます。これには一般の方の参列も自由です。またこの「茅の輪」は境内に数日間残していますので、どうぞご参拝下さい。

水無月の夏越の祓いする人は

千歳の命延ぶというなり

○ 茅の輪のくぐり方

茅(かや)で作られた大きな輪のことで、それをくぐることににより、知らずに犯した罪やけがれが祓われると云われています。くぐり方には決まりがあつて、左まわり・右まわり・左まわりと、8の字を書くように三度くぐり抜けます。そうすると身も心も清らかに祓われると云われています。



春日敬神婦人会 日帰り研修旅行

会長 續 道子



当会恒例の行事である日帰り研修旅行を、去る六月二日に開催しました。出発に先立ち月例の月次祭を行ない、併せて本研修の成功をご祈願しました。そして、参加会員二十一名と神社からの引率である宮本宮司と妻垣権禰宜お二人を加えた私たちはバスに乗り、県内北部の中津市へと向かいました。

中津市はご承知のとおり、明治の思想家教育者福沢諭吉先生のふるさとであり、近年はB級グルメ「からあげ」で全国的にも有名になっています。特に今年は、NHK大河ドラマ「軍師 官兵衛」効果により、中津城を築城した黒田官兵衛ゆかりの地であることから、日々多くの観光客が訪れています。

バスは市街に入り、官兵衛が作った城下町の街並みを通り中津城址へと向かいました。址には昭和三十九年に再建された天守閣がそびえ、その隣に鎮座します中津大神宮へ私たちは正式参拝を行ない、長谷川保則宮司様より神社の由緒や黒田官兵衛公のお話を伺いました。同宮は明治十四年、伊勢の神宮の大神様の御分霊を奉斎しており『豊前の国のお伊勢様』として人々に親しまれ、普く崇敬を集めているそうです。またお宮の造りも特殊だそうで、本殿は伊勢の神宮と同じ唯一神明造。拝殿は近郷では珍しく妻入り縦長型になっているとのこと。内部には東京駅や平安神宮応天門の扁額を書いた明治の書道家宮小路康文氏の『大哉神徳』の大きな扁額が掲げられ、その大きさと筆の力強さに圧倒されました。参拝後は中津城天守閣と併設している奥平資料館、さらに大河ドラマに併せて開館した黒田官兵衛資料館も見学しました。

その後、昼食会場として「筑紫亭」に場所を移し、名物のはも料理を堪能。午後からは豊前太平楽道の駅に立ち寄り、帰路となりました。官兵衛ブームに沸く中津市での今回の研修旅行でしたが、会員相互の親睦とともに実りある研修になったと思います。



参議院議員 山谷 えり子

神道政治連盟国会議員懇談会
副幹事長

子供たちが、あたたかく優しく健やかに成長できるよう”教育再生“は現在進行形で続けられているところですが、その成果が着実に歩みを進めております。

第一次安倍内閣で、教育再生担当の総理補佐官を務めていた時に、六十年ぶりの教育基本法改正、四十三年ぶりの全国学力テストを実施し、問題点を明らかにし必要な箇所重点的に予算を投じて改善をはかり、社会総がかりで国家百年の大計である教育改革に取り組みました。

そして、平成二十四年に実施した『OECD生徒の学習到達度調査(PISA)』の参加 三十四か国中、科学的リテラシー及び読解力の二項目で、いずれも世界一位となりました。

また、平成二十七年から使用される小学校の教科書では、旧学習指導要領の教科書と比べると、全教科平均で三十六・二パーセントもページが増え、ゆとり教育という名のもと”ゆるみ教育“から、やっとなげ出したような気がいたします。

さらに、小・中学校で使用される教材「私たちの道徳」(文部科学

省発行)が新しく作成され、この四月から約一千万人の子供たちの手に届きました。

小学一・二年生用教材は、昔話やファールブル、二宮金次郎のお話などのほか、早寝早起き朝ごはんなど、良い生活習慣が身に付くよう工夫され、小学三・四年生用は、オリンピック金メダリストの高橋尚子さん、葛飾北斎、良寛の生き方などが記されています。

また、”おもてなし、一期一会、和食や和服“を紹介しながら、日本の道を求める文化に思いをいたすような構成にもなっています。小学五・六年生用では、国際的な視点をもって生きた野口英世、新渡戸稲造、福沢諭吉などが紹介されているほか、近江商人の売り手良し、買い手良し、世間良しの「三方良し」の考え方などを通し、働く意味について考えさせるコラムもあります。

「科学技術立国」日本として、世界に誇れるiPS細胞の山中伸弥先生や、はやぶさプロジェクトなどの紹介も豊富で、子供たちがワクワクしながら将来の夢や希望を語り合い、これから長い人生を歩む上で本教材が”心の糧“となることを期待していますが、各地で講演する中で紹介すると、「学校で配られていない」「授業終了後ごとに回収している」などの声もあり、文科大臣に報告したところ大変驚かれ、現在使用状況を全国に調査中ときいています。

良い教材を子供達にしっかりと活用してもらい、国際化がすすむわが国で、日本文化の素晴らしさや高い国民性を伝えられるような人格形成の一助となつてほしいと願っています。

◎ 御神木の養生について

樹勢が弱り心配されていた御神木の楠ですが、ここ数年にわたり肥料を入れるなどして大事に養生をしてきたことで、本年も多くの緑葉をつけ安定した状態が見られるようになってきました。千年以上も同じ場所で神社を見守ってきた大木です。後世に残していけるよう今後も手入れを怠ることなく養生を尽くしてまいりたいと思っています。



◎ 日本プロフットサルリーグ バサジィ大分の祈願祭

年々と盛り上がりを見せる「Fリーグ」に参戦しているバサジィ大分の役員選手が、5月20日に揃って参拝、チームの必勝と選手の安全を祈願しました。昨年はリーグ優勝争いに大きく食い込み、最後まで盛り上げてくれた地元のチームに今年も期待せずにはおれません。当日は取材陣も多数来社し、参拝後は参集殿で記者会見が開かれました。



◎ 中学校職場体験学習 本年も実施

当神社では毎年この6月から9月にかけて、中学校の職場体験学習として女子生徒を受け入れており、今年も例年同様の6校を予定しています。

生徒たちは神職の講話を聞くなどした後、巫女の衣装に着替えて、神社での基本的な心構えからお参りの作法、さらに舞の体験では「豊栄の舞」に挑戦。本職の巫女2人から榊の持ち方などのアドバイスを受けながら、伝統の舞に取り組んでもらいます。短い実習期間の中ではありますが、できるだけ多くの職務に触れてもらい、これらの体験を通じて日本文化の素晴らしさを感じ、これからの生活に活かしてもらえたらと思います。



◎ 春日町小学校へ出張雅楽教室

蓬萊雅楽会では県内各社寺恒例行事での奏楽のほか、近郊の学校に出向いての雅楽教室などを積極的に実施しています。

去る3月7日、大分市西春日町の春日町小学校において、5・6年生児童200名を対象に雅楽教室をおこないました。この日は笙・箏・龍笛の奏者3名が出向、はじめに雅楽の歴史や当日持参した楽器を紹介したの続き、「越天楽」を演奏しました。その後、希望する児童が実際に楽器を手にして音出しを体験。音が出たときには歓声や拍手がおこるなど、日本の文化を見て聞いて触れて体験してもらうことが出来ました。

後日、児童たちからお礼や感想を記した手紙を頂きました。地元の子供たちにとって、よく知っている身近な神社で、教科書の中だけの雅楽が行われていることに、新鮮な驚きがあったようです。



「アライダルフェア 春日物語」

「夏祭の巻」

八月三日(日)十四時〜十六時三十分

※十三時三十分 受付開始

◆ファッションショー 十四時〜

・色打掛やドレスなど

◆模擬拳式 十五時〜

・巫女舞

・雅楽生演奏

◆お祭りタイム 十五時三十分〜

・ヨーヨーすくい

・輪投げ

・駄菓子屋台 他

・デザートビュッフェ

ご来場記念品プレゼント

★大分の花火大会の日なので、

ぜひ浴衣を着てお越しください。

浴衣を着て寺の方には特典あり！

★予約不要

《お問合せ・お申込み》

春日神社婚礼係

TEL 〇九七―五三二―五六三ハ



○演目 陵王 落蹲

「陵王」と「落蹲」は番舞(つがいまい)の關係にある舞曲です。番舞とは、左方(唐樂)、右方(高麗樂)の舞曲を組み合わせて一番(ひとつがい)にしたものを言います。唐樂の代表選手が「陵王」とすれば、高麗樂の最先鋒にはこの「落蹲」が挙げられるでしょう。

「陵王」は武人の舞らしい勇壮さの中に、絶世の美貌で知られた蘭陵王を偲ばせる優雅さを併せ持ちます。悲劇的な最期を遂げたとされる蘭陵王ですが、でもなお雅樂の曲目として愛され演じ続けられています。

「落蹲」は別名を「双龍舞(そうりゅうのまい)」というように、二匹の龍がたわむれ遊んでいる様を舞にしたものといわれています。この曲が二人で舞われるときは「納曾利(なそり)」とも呼ばれ、名称が変わる舞です。

蓬萊雅樂会の活動について 秋の演奏会のお知らせ

本年は秋季大祭宵祭にあわせて演奏会を行うこととなりました。今回の舞樂演目は「陵王」と「落蹲」です。

○期日 十月十八日 秋季大祭 宵祭終了後

○場所 春日神社境内

※九月にはいりましたら、ホームページ等で詳細をお知らせします



人事

採用

平成二十六年三月十一日付

権瀬宜 井上 篤

(薩摩川内市新田神社より転入)

退職

平成二十六年三月三十一日付

権瀬宜 法元 茂之

(西都市都萬神社へ転任)